



南米[ブラジル]

1 農・畜産業の概況

農牧センサス（2006年）によると、ブラジルの農業経営体520万戸の所有面積は、3億5490万ヘクタールで、このうち農耕地が7670万ヘクタール、牧草地が1億7230万ヘクタールとなる。2009/10年度には農耕地の62%に当たる4742万ヘクタールが穀物生産に向けられた結果、穀物生産量は前年比10.4%増の1億4925万トンとなった。

畜産分野では、牛肉生産が米国に次ぐ世界第2位、鶏肉生産が米国、中国に次ぐ3位となっており、豚肉生産も世界4位の生産量となっている。また、牛肉と鶏肉は、世界第1位の輸出量を有している。

2010年の農産物（農畜産物、林産物および水産物）輸出額は国際金融危機の影響を受けた2009年より回復し、

前年比37.9%増の764億ドルと過去最高となった。同年の農産物輸入額を差し引いた貿易黒字は630億ドルとなり、農業部門が国の対外収支に重要な役割を果たしていることを示している。

2010年の主要輸出先は、地域別では前年に引き続きアジア向けが最も大きく全体の30%を占め、次いでEU向け、中東向けが続き、国別では中国向けが15.2%と最大のシェアを占めた。

表1 農場面積と農場数の推移

	1970	1975	1980	1985	1996	2006
農場数	4,924	4,993	5,160	5,802	4,860	5,204
農場面積	294,143	323,894	364,853	374,925	353,611	354,865

資料:IBGE(ブラジル地理統計院)

2 畜産の動向

(1) 牛肉

ブラジルの肉牛生産は、1億7230万ヘクタールの牧草地を利用した放牧肥育が中心で、耐暑性に優れたインド原産のゼブーに属するネローレ種が主に飼養されている。

2008年の米国に端を発した国際金融危機の影響は、2010年に入り緩和し、大手パッカーの一部には買収、経営統合による事業拡大により、事業の多角化、経営の合

理化を図る動きが見られた。ブラジル第2位の食肉パッカーのMARFRIG社が6月、米国の大手食品会社Kingstone Food社を買収したことにより、ファストフード部門へ進出したのがその例である。また、同社はこの買収により、年間売上高ではブラジルのJBS-Friboi社および米国のタイソンフーズ社に次ぐ世界第3位の食肉パッカーとなった。

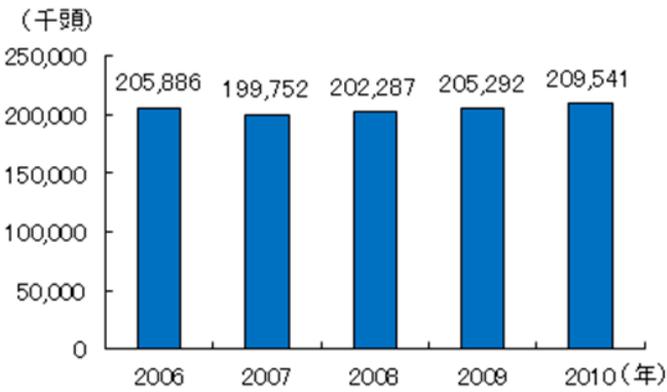
2007年に南部のサンタカタリーナ州はブラジル初の口蹄疫ワクチン不接種清浄地域のステータスを取得した。

また、BSEの清浄性は管理されたリスク国と評価されている。

① 飼養動向

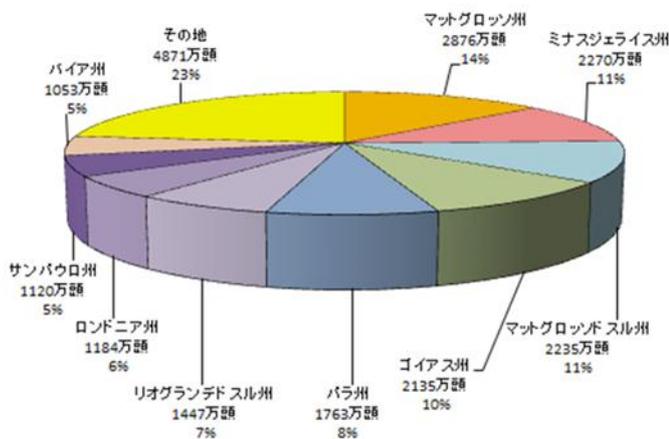
2010年の牛飼養頭数は、前年比2.1%増の2億854万頭となった。州別で見ると、前年に引き続きマットグロッソ州が2876万頭で最も多く、全国の14.0%を占めた。次いでミナスジェライス州の2270万頭、マットグロッソドスル州2235万頭、ゴイアス州2135万頭が続いており、これら4州で全体の45.4%を占めた。

図1 牛飼養頭数の推移



資料: CONAB(国家食糧供給公社)

図2 州別飼養頭数(2010年)



資料: IBGE

② 牛肉の需給動向

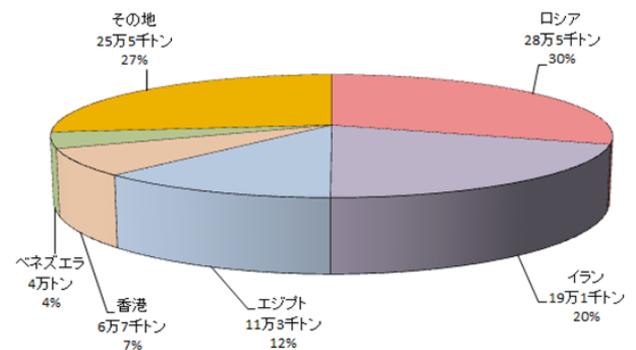
生産

2010年のと畜頭数は前年比4.3%増の2928万頭、牛肉生産量は前年比3.6%増の878万2000トン(枝肉換算)と2007年以降3年連続の減少傾向から増加に転じた。これは、2008年後半から続いた国際金融危機の影響が緩和したことや内需・外需の回復によるものとみられるが、一方で主要な生産地域で長期乾燥の被害が草地の生育に影響を及ぼしたことやこれまで続いた繁殖用雌牛の減少が回復基調へのブレーキとなった。

イ 輸出

2010年の牛肉輸出量は、前年比4.0%減の154万6500万トン(枝肉換算)であった。イラン向け、エジプト向けなど新規市場への輸出が増加した一方で、ロシア向けや香港向けなどの伝統的市場への輸出が減少した。また、加工肉の主要輸出先国である米国で、ブラジル産牛肉に許容量を越す残留農薬が検出されたことを受け、米国向けの輸出が一時停止したため、加工肉全体の輸出量は前年比23.8%減となった。2010年の主要輸出先国はロシア向け、イラン向けおよびエジプト向けであり、これら3国で全体の55%を占めた。

図3 生鮮肉(冷凍、冷蔵)の輸出先国(2010年)



資料: ブラジル開発商工省貿易局(SECEX)

ウ 消費

2010年の国内消費量は、前年比5.59%増の718万7000トンとされ、1人当たり年間消費量は同4.5%増の37.2キログラムであった。

表2 牛肉需給の推移

(単位:千トン、kg)

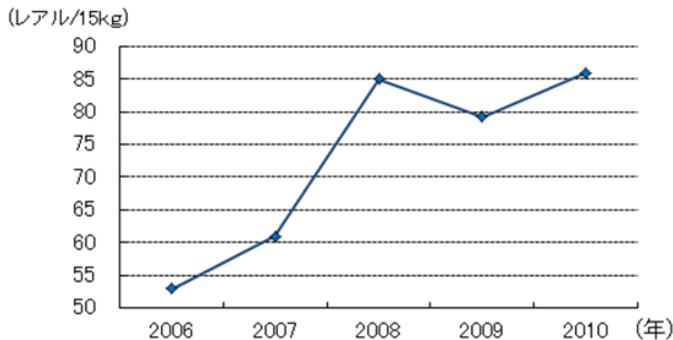
	2006	2007	2008	2009	2010
生産量	10,183	10,082	8,839	8,474	8,782
輸入量	27	31	30	39	38
輸出量	2,178	2,285	1,919	1,703	4,634
1人当たりの消費量	36	37	37	36	37

資料: ブラジル農務省、ブラジル国家食糧供給公社(CONAB)
注: 枝肉重量ベース

③ 牛肉の価格動向

ブラジルでは生産者販売価格は生体15キログラム単位(アローバ)で示される。2010年の肥育牛の年間平均価格(サンパウロ州)は、前年比8.5%高の1アローバ(15キログラム)当たり85.98リアルであった。卸売価格(同州)は、前年比10.3%高の枝肉1キログラム当たり6.84リアルとなった。

図4 肉牛価格の推移(サンパウロ州)



資料: CONAB

(2) 養鶏、鶏肉

国際金融危機の影響が緩和した2010年は、内需・外需の高まりを背景に生産量・輸出量ともに過去最高を記録した。

このような状況下、4月に業界団体の再編があり、生産部門を代表するブラジル養鶏連合(UBA)とブラジル鶏肉輸出業協会(ABEF)が合併し、ブラジル養鶏連合(UBABEF)が設立された。

① ブロイラーの需給動向

ア 生産動向

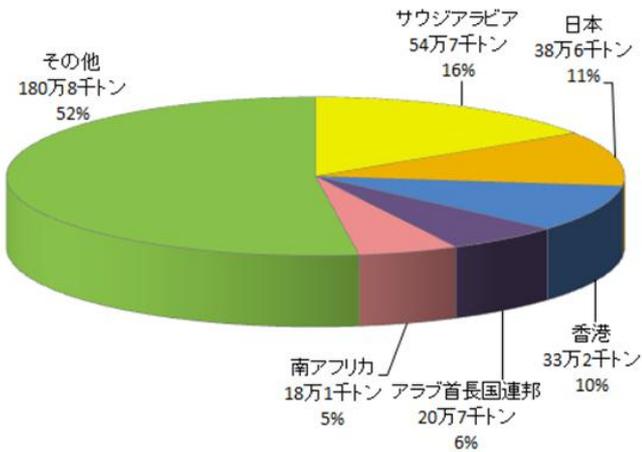
2010年のブロイラー用ひなふ化羽数は、2008年の国際金融危機からの回復、国内消費の増加などから前年比8.0%増の60億1000羽となり、1カ月当たりのふ化羽数は5億羽となった。鶏肉生産は肉牛不足に起因した牛肉価格の高騰による代替需要から、2009年(1102万1000トン)に比べ、11.7%増の1231万2000トンとなった。

イ 輸出

2010年のブロイラー輸出量(骨付きベース)は、主要輸出国の在庫減少や新たな輸出先の確保により前年比6.0%増の346万1000トンと過去最高であった2008年(326万8000トン)の記録を更新した。形態別ではパーツが全体の61.0%、丸鳥が39.0%となっており、輸出先国はサウジアラビア向けが全体の15.8%、次いで日本向けが11.1%、香港向けが9.6%を占めた。

輸出額(加工品を含む)は、2009年から引き続き為替相場が全体的にドル安・リアル高傾向で推移する中、前年比32.9%増の57億9000万ドルとなった。

図5 鶏肉の輸出先国(2010年)



資料: SECEX

ウ 消費

2010年の1人当たり年間鶏肉消費量は、前年比13.7%増の43.9キログラムとなった。

表4 鶏肉需給の推移

(単位: 百万羽、千トン、kg)

	2006	2007	2008	2009	2010
ひな生産羽数	4,571	5,145	5,463	5,557	5,987
生産量	9,354	10,305	11,033	11,021	12,312
輸出量	2,713	3,287	3,645	3,634	3,820
1人当たりの消費量	35.8	38.1	39.7	38.6	43.9

資料: CONAB

② ブロイラーの価格動向

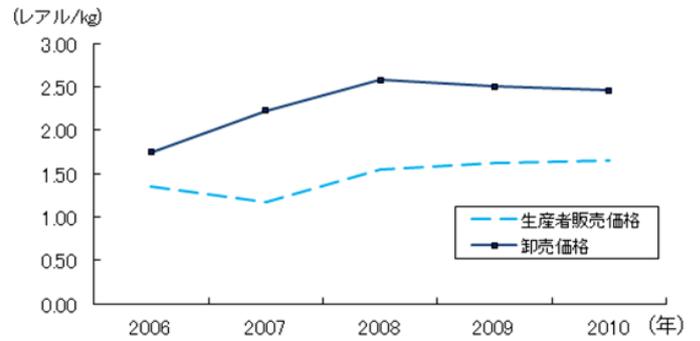
ア 生産者販売価格

2010年の生産者販売価格(サンパウロ州)は、前年比3.6%高の1キログラム当たり171リアルとなった。

イ 卸売価格

2010年の卸売価格(サンパウロ州)は、前年比2.0%安の同2.46リアルとなった。

図6 ブロイラー価格の推移(サンパウロ州)



資料: CONAB

3 飼料穀物

ブラジルはトウモロコシの生産量および輸出量が世界第3位である。パラナ州をはじめとした南部（ウルグアイ国境部）はトウモロコシの国内生産の約半分を担う。トウモロコシの作付は夏作（第1期作）と冬作（第2期作）の年2回行われ、第1期作はパラナ州（南部）、第2期作はマットグロッソ州（中西部）が最大の生産地となっている。また、トウモロコシの第2期作は大豆の裏作として生産されている。

① 主要政策

2010/11年度（農期2010年7月1日～2011年6月30日）は、農務省が管轄する一般農業部門に対し前年比8%増の1000億リアル、家族農業部門に対し160億リアル、計1160億リアルが融資資金として措置された。

このうち、756億リアルが営農および販売のための融資、180億リアルが農業投資プログラムに対する融資とし、営農及び販売融資資金の80%にあたる607億リアルを政府が利息の一部を助成する資金として、その利率を前年同の年利6.75%とした。また、トウモロコシ及び大豆を含む農業や畜産部門の1農家当たりの融資限度を引き上げた。

投資融資については、農業分野における温室効果ガス（二酸化炭素）の低減を目的として、環境保全と農業生産を両立させる生産システムを推進する低炭素排出型農業プログラム（ABC）が新設されたほか、持続的農業生産のための投資や貯蔵インフラの整備を図る投資に対する融資や農業融資以外の支援策の中核となる中型農業生産者支援を強化する政策が継続された。

農業融資以外の支援策のうち、市場価格下落の際に生産コストを保証する政府の買い上げや、生産物を担保とする販売融資の基準となる最低保証価格は、生産コスト

や市場価格の変動を基礎に毎年改正されているが、2010/11年度は、生産性の向上により収益は保障されとの判断の下、改正は行われず前年の価格が引き継がれた。このほか、農産物搬出に対する輸送コストの助成を図る農産物流通助成金（PEP）等の支援策が継続された。

② 飼料穀物の需給動向

2009/10年度（10月～翌9月）のトウモロコシ生産は、前年度比9.8%増の5602万トンであった。主要生産地で気象条件に恵まれたことが単収増加の要因となった。第1期作では前年度の収益が良好であった大豆の作付けが増加した一方で、トウモロコシの作付けが減少したが、第2期作では下半期のトウモロコシ価格上昇の予想の下にトウモロコシの作付けが増加した。

トウモロコシ輸出量は国際市場価格の上昇、輸送コストの軽減を図る政府の支援（PEP（農産物流通助成金））により前年度の49.7%増の1097万トンとなった。国内市場に4697万トンが供給され、559万トンが期末在庫として次年度に繰り越しとなった。

同年度の大豆の生産量は、前年度比20.2%減の6869万トンとなった。輸出量は、同1.9%増の2907万トンとなった。

表5 トウモロコシの需給表

（単位：千トン）

区分/年度	2005/06	2006/07	2007/08	2008/09	2009/10
期首在庫	3,113	2,816	1,824	7,676	7,113
生産量	42,515	51,370	58,652	51,004	56,018
輸入量	956	1,096	652	1,182	392
消費量	39,830	41,909	46,084	45,414	46,968
輸出量	3,938	10,934	7,369	7,334	10,966
期末在庫	2,816	2,438	7,676	7,113	5,589

資料: CONAB

表6 大豆の需給表

(単位:千トン)

区分/年度	2005/06	2006/07	2007/08	2008/09	2009/10
期首在庫	2,735	2,470	3,676	4,540	674
生産量	55,027	58,392	60,018	57,162	68,688
輸入量	49	98	96	99	118
消費量	30,383	33,550	34,750	32,564	37,800
輸出量	24,958	23,734	24,500	28,563	29,073
期末在庫	2,470	3,676	4,540	674	2,607

資料: CONAB

③ 飼料穀物の価格動向

2010年におけるトウモロコシ価格(サンパウロ州)は、前年度比2.3%安の60キログラム当たり17.7リアルとなった。

大豆価格についても、トウモロコシ同様、2010年平均では、前年比16.7%安の同36.88リアルであった。

表7 トウモロコシ価格の推移(サンパウロ州)

(単位:リアル/60kg)

区分/年	2006	2007	2008	2009	2010
生産者販売価格	14.06	20.42	22.42	18.11	17.7

資料: CONAB